

令和5年 7月 12日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

静岡県		
学校名	管理機関名	設置者の別
静岡大学教育学部附属浜松小学校（外0校）	国立大学法人静岡大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
静岡大学教育学部附属浜松小学校	https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/about/evaluation/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
静岡大学教育学部附属浜松小学校	https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/about/evaluation/	https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/about/evaluation/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 一部、計画通り実施できていない
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

時数管理を行い、年間指導計画を作成し、計画通りに「総合課程」と「生活創造課程」を行っている。「生活創造課程」では、決められた時間に「道徳科」の授業を行うだけでなく、その都度タイムリーに内容を吟味し、横断的に行っている。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

入学児童説明会やPTA総会等で、保護者を対象として特別の教育課程に関する説明をする機会をつくり、保護者が特別の教育課程を「自分事」として考えることができるように工夫を図っている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

「生活創造」課程において、学級や学校生活をよりよいものにしていくために、自らの創意を生かして、学級や異年齢集団の仲間と関わったり、学校全体の仲間のことを考えたりする経験を積み重ねてきた。子どもは、その過程で、自分と仲間の感じ方や考え方の違いを受け入れ、互いの存在を認め、仲間と共に生活をよりよくしていこうとする態度を身に付けてきた。このように、「生活創造」の目標に向かって教育活動を推進したことにより、自主的・自治的な能力を高め、子どもの社会性が育まれていることを実感することができた。また、「総合」課程においては、低学年で行う生活科において、身近な対象と繰り返し関わらせることで「自分自身への気づき」を深めてきた。そして、「総合」が行われる中学年・高学年では、低学年の生活科から系統性をもたせ、意図的・計画的に学習テーマを決め、課題解決をしていく経験を積み上げてきた。試行錯誤しながら追究していく過程で、自分に自信をもったり、現実の社会や人に触れ、自分を見つめ直してきたりしたことで、子どもは自分の生き方を形成していくことにつなげることができた。このように身に付けてきた資質・能力は、常に変化していく未来の社会に対応すべき能力であり、本校の学校教育目標である「自己を磨き、他とともに、よりよい未来を創造する子の育成」につながっていることと考えられる。

それぞれの領域において、子どもたちの思いを大切にしながら、課題解決に向けての活動を設定し、意欲的に活動できるようになってきたが、自ら課題を見つけ、追究活動において自分の考えを深めていこうとするところまで至っていない姿も見られる。また、コロナ禍で、社会や人々と関わることに制限も多く、積極的な関わりを持つことが難しかった。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校で設定している3つの領域「教科」「総合」「生活創造」で身に付けた資質・能力が、それぞれ別の領域においても反映されている。「生活創造」で育まれたコミュニケーション能力は、「教科」「総合」において話し合いをするときに生かされ、「総合」で育まれた課題設定や課題追究する力は、「教科」の学習に活かされている。このように、それ

それぞれの3つの領域が関連し合って、学校教育法に示された目標に示された力を育成することができている。

一方で、どの領域（「教科」「総合」「生活創造」）においても子どもたちの思いにあわせた体験的活動が多岐にわたり、それらにつながる活動にするための準備の時間をしっかり確保することができていない状況である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、3領域（「教科」「総合」「生活創造」）のつながりを意識した教育課程の編成を行い、効果的に資質・能力を育んでいけるようにしたい。

また、今年度は、コロナウイルス感染症の分類が2類から5類と引き下げられた。社会や自然、様々な人々と関わる学習を積極的に進め、子どもの学びが現実の世界に存在する「本物の実践」に可能な限り近づけるように学びの文脈を大切にしたい教育活動が展開できるようにしていきたい。